令和２年１月１日発行（毎月１回１日発行）通巻第665号

林業福島

No. 665

題字　公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長　齋藤卓夫

1
2020

監　　修■福島県農林水産部
表紙の写真■男の仕事

夢と希望をつなぐための挑戦

福島県知事
内　堀　雅　雄

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

震災から間もなく九年を迎えようとしております。県民の皆様の懸命な御努力と国内外からの温かい御支援により、福島県は復興への歩みを着実に進めてまいりました。

一方で、今もなお、多くの方々が避難生活を続けておられるほか、急激な人口減少、さらには、台風第十九号等の大雨による甚大な被害が発生するなど、本県は、二重・三重の困難を抱えております。

県といたしましては、引き続き、危機意識とスピード感を持って、これらの重い課題からの復興と地方創生に取り組んでまいる決意であります。

まず、避難地域の復興・再生につきましては、被災者の生活再建と生業の再生を始め、廃炉・汚染水対策、鳥獣被害対策など、一人でも多くの方に安心して帰還いただけるよう生活環境の整備を進めてまいります。

また、台風と大雨災害からの復興につきましても、被災箇所の復旧に全力を挙げ、被災された方々が再び前を向いて歩み出せるよう、引き続ききめ細かく対応してまいります。

さらに、浜通りの産業基盤や雇用回復を図るべく進めている国家プロジェクト「福島イノベーション・コースト構想」の効果を全県に波及させるとともに、農林水産業や商工業などの既存産業についても、人材の確保・育成を始めとした総合的な支援に努めてまいります。

次に、人口減少対策につきましては、子育て世代や若者の雇用の場を確保するなど、安心して結婚・出産・子育てができる環境を充実させることが重要です。引き続き、保育の受け皿確保や医療・福祉・介護の人材確保・育成、全国に誇れる健康長寿県を目指す取組を進めていくほか、定住・二地域居住を始め、本県が持つ可能性、魅力、強みをいかした「福島ならでは」の地方創生を推進するなど、幅広く取組を展開してまいります。

今年の七月からは、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。皆様と共に、これまでの御支援に対する感謝の思いと、復興が進む福島の姿と魅力を国内外に広く発信できるよう、関係の方々と力を合わせて準備を進めてまいります。

今年は復興・創生期間の最終年度を迎えます。これからも常に危機意識を持って職務に臨み、県民の皆様、そして国内外の福島に心を寄せてくださる全ての皆様と「共働」しながら、次の世代に夢と希望をつないでいけるよう全力で挑戦を続けてまいりますので、今後とも、一層の御支援、御協力をお願い申し上げ、新年の御挨拶といたします。

《もくじ》

とびら
夢と希望をつなぐための挑戦
福島県知事　内　堀　雅　雄……1
復興五輪のLegacyとなるために　……2
新春特集
オリンピックイヤーに思う……3～4
女性に向けたイベント「森林の恵みのリースづくり～針葉樹（フレッシュグリーン）と木の実を使ったリースづくりワークショップ～」を開催しました　……5
福島県森林環境税による取組　第２回……6
福島県林業労働力確保支援センターだより……7
普及指導員通信……8
森林管理署メモ……9
公社だより……10
木の文化を育む⑩……11
木材市況・ふくしま東西南北……12
はなしのひろば・お知らせコーナー……13

復興五輪のＬｅｇａｃｙとなるために

（公財）福島県都市公園・緑化協会
施設管理課長　齋　藤　達　雄

１．あづま球場の歴史と現状

我々が管理するあづま総合運動公園は、昭和四五年に明治百年記念事業の一つとして建設が計画され、昭和五二年から整備が進められました。

県営あづま球場は、昭和五八年から整備が進められ、昭和六一年九月に完成。両翼一〇〇㍍、センター一二二㍍、収容人員は三万人と県内最大の野球スタジアムであり、平成二九年度には約一〇万人が球場を利用しています。

建設から三四年が経過しているあづま球場は、五輪会場の決定を受けて、施設の老朽化とバリアフリー化の遅れが課題となり、平成三〇年十月から県による改修工事が始まりました。グラウンドの人工芝生化、ロッカールームなど諸室の改修、トイレの洋式化と昇降設備の新設が今年十月に完了し、新設されるエレベーターは本年度中に完成予定で、オリンピック本番に向けて着々と準備が進んでいます。

２．東京五輪決定を受けて

平成二九年三月、東日本大震災からの復興五輪と位置づけられ、野球・ソフトボール大会の会場としてあづま球場が決定し、当時郡山市にある福島県総合緑化センター・逢瀬公園の所長として勤務していた私にとっては、オリンピックの意義や歴史の重みなど実感として感じることはできませんでした。

昨年四月にあづま総合運動公園の施設管理課長へ異動となり、毎日のように情報が飛び交うなかで、オリンピック組織委員会や県との会議、その他視察やマスコミ対応などに追われる日々を送っています。先日、東京五輪に係る経費が三兆円を超える試算との報道もあり、改めて壮大なプロジェクトの中にあることを知り身の引き締まる思いです。

３．施設管理者としての東京五輪への思い

九月に人工芝生化工事が完了し、同月二八日にはこけら落としとしてプロ野球イースタンリーグ「楽天ＶＳ日本ハム」戦が行われたのを皮切りに、十月五、六日にはオリンピックのテストイベントの日本女子ソフトボール一部リーグが開催されました。このとき二〇〇八年北京オリンピックのソフトボールでの優勝投手、上野由岐子選手もあづま球場の新しいマウンドに立ちました。

この二つの試合を通して、選手や関係者からマウンドのアンツーカーの硬さや、人工芝の具合など様々なアドバイスを頂くことができました。これを受けて協会の担当職員は、もう一つの野球・ソフトボール大会会場である横浜スタジアムへ直ちに視察に行き、グラウンド整備の研鑽を深めるなど、最高のグラウンドコンディションを創り出すために日々奮闘しています。

今回の東京五輪においてあづま球場のみならず、あづま総合運動公園を訪れる方は県内に止まらず、県外はもちろん海外からのお客様もたくさん訪れることでしょう。

私たち協会の経営の基本方針として、〝利用者が「また、来てみたい」と思うような誰にも親しまれる管理運営を行います〟を掲げております。来場される子供から高齢者、ハンディキャップをお持ちの方の目線で、施設の痛んだ箇所の修繕、段差の解消や、案内板の見直しなど改良を進めております。

私たちはあづま総合運動公園の開園当時から管理運営に取り組んできました。我々の経営の基本理念である「Ｗｅ　Ｌｏｖｅ　福島。みどり・健康・コミュニケーション」は、福島を愛する心を持って、みどり豊かな環境、健やかな県民生活、そして人々のふれあいの場の創出に取り組むことを目指しています。この度の復興五輪東京二〇二〇大会を、あづま球場のＬｅｇａｃｙとして、オリンピックの精神や歴史を後世に残し伝えることは、我々の新たな使命と受け止めさらに精進していかなければと心から思っています。

是非、この機会にあづま総合運動公園、そしてあづま球場にお越し頂き、見て・触れてＬｅｇａｃｙを感じていただければと思います。お待ちしています。

ソフトボールリーグ開催

暗渠工事

工事完成

人工芝生工事

新春特集

オリンピックイヤーに思う

第十八回東京オリンピックの思い出

南会津町　舘岩地区林業振興協議会
女性部長　阿久津　啓子

昭和三九年、第十八回東京オリンピックが行われました。私は高校一年生。

一番の思い出は、十月十日、抜けるような青空の中行われた開会式です。今でも目と耳に焼き付いています。日本選手団は、白のハットに赤白上下のスーツ姿で入場行進の最後に整然と入場。昭和天皇様の大会開会宣言。響き渡ったオリンピック賛歌。最終聖火ランナーが、聖火台の傍でトーチを高々と掲げ大きな炎となった瞬間。選手宣誓のあとに、放たれ舞ったたくさんのハト。最後に、自衛隊ブルーインパルスにより、五輪の輪が青空に大きく描かれました。一機一機が五色の輪を描いていく様子を当時、渋谷に住んでいた私は、この目で歓声をあげながら見上げることができたのです。薄くなり消えていくまで。

競技の中では、「東洋の魔女」女子バレーボールチームのソビエトチームとの金メダルをかけた一戦です。鬼の大松と異名をとった監督の元、この一戦に最後をかけるという強い想いか綺麗に整えた髪型の葛西主将をはじめとして、必死になってボールを追う選手達。一躍有名になった回転レシーブ。そして何回繰り返されたことでしょうか「マッチポイントです！」というアナウンサーの声に手に汗を握りながら、共に声援をおくりました。この一戦にかけ金メダルを手にした選手達の姿に、日本中がテレビに釘付けになり、共に喜び涙しました。

オリンピック最後を飾るマラソンでは、エチオピアの『裸足のアベベ』選手が、前回ローマ大会に続き二連覇という偉業をなしとげました。福島県人が忘れてはいけない県出身の円谷幸吉選手も、マラソンで日本人初の銅メダルに輝いたのです。そして、その後の彼の悲しい出来事も決して忘れることはできません。

ブルーインパルスによる五輪の輪（イメージ）

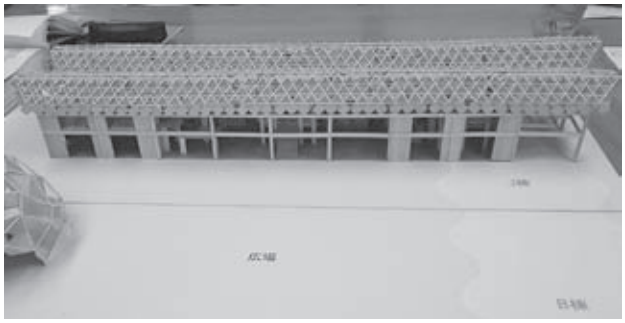
東京オリンピックでの木材利用

福島森林管理署長　香月　英伸

三年半程前、林野庁木材産業課に在籍してた際に、東京オリンピックでの木材利用も担当しました。有明体操競技場や有明アリーナ、新国立競技場の屋根部材等に木材が使用されることが決まりましたが、あくまでも部材の一部であり、木造施設を実現すべく、東京都庁内のオリンピック組織委員会に何度も足を運びました。

コストをあまり掛けられないこと、そして、再利用（リユース）の推進と遺産（レガシー）を残すことを旨として、選手村のビレッジプラザを木造で仮設し、建物をどこかの自治体に提供してもらい、オリンピック後にその自治体に移築する、或いは、複数の自治体から部材を提供してもらい、オリンピック後にお返しする、といった線で調整。部材提供と部材返還時の予算年度が異なるため、自治体では予算を掛けての将来の引き取りを約束しづらいといった問題もありながらも、福島県をはじめ全国六三の自治体のご協力により、東京オリンピックの主要施設で唯一の木造施設の整備に漕ぎ着けることができ、白河市内の国有林から出材されたヒノキも使用していただくことになりました。

令和の最初の新年を迎え、オリンピックでの木材利用を一つの契機として、非住宅での木造或いは木材部材の利用といった、用材利用の更なる広がりを祈念いたします。



日本建築士連合会制作のビレッジプラザ木造化提言模型（平成28年）

持続可能な木材活用への取組

藤寿産業株式会社　渡邉　宏

国際的な平和の祭典が今年開催される。一九六四年以来五六年間で変わることなく五輪の精神は引き継がれている中、首都圏を中心に新たな施設が建設され、選手が活躍する舞台が出来上がってきた。

近年、大規模建築物での木造化木質化が進められていたこともあり、東京五輪の会場となる多くの施設には日本各地の木材が使われ、もちろん福島県産の木材も使われている。弊社も五輪公式会場となる新国立競技場や平和の森公園体育館などへ福島県産の木材を納め、ＰＲを含め携わらせて頂いた。また、ＪＲ東日本高輪ゲートウェイ駅でも福島県材の集成材が構造部材に使われている。障子や折り紙などを連想させる大屋根が日本文化のエッセンスを想起させ、福島県産スギが東京五輪とともに二〇二〇年の日本の顔として品の良さを際立たせている。

国際的な祭典で盛り上がりを見せる中、自然環境においてはどうであろうか。世界各地で気候変動により大気中の温室効果ガス濃度、地球温暖化などによる問題化が注視され、我々にそれらの課題が多く降りかかってきている。解決への道しるべ、それは持続可能な資源である木材の活用であることだろう。ＳＤＧｓの取組みをはじめ、より多くの木材を使い、福島県に限らず日本全土での木材自給率を高める取組をしなければならない。

福島県は全国第四位の森林面積を有していることもあり、持続可能な取組としてより多くの木材を活用し、県内外へこれまで以上に福島県産材の良さを発信出来るよう微力ではありますが、貢献して参りたい。

JR東日本　高輪ゲートウェイ駅
「撮影協力：JR東日本」

「いわきゴールドしいたけ」を海外の食卓へ

～FGAP認証による東京オリンピック選手村への食材提供を契機として～

農事組合法人いわき菌床椎茸組合　代表理事　渡部明雄

昭和三九年十月、「オリンピックが日本で開催される！」小学校五年生の私には、それがアジア初とか、戦後復興の象徴とか世界再デビューとか様々な大きな意義を持っていた事など分かるはずもありませんでしたが、日々報道される日本人の活躍もあり、毎日が高揚感と将来への明るい希望に胸を膨らませていたのを覚えています。

「今年あのオリンピックがまた東京で開催される！」少年時代の思い出が蘇ってくると同時に、今回は別な思いが生まれてきました。

これを契機として未だ残っている「福島県産農林水産物」の風評被害を払拭出来ないか、安心安全そして何よりも「美味しい」事を日本、いや世界の人々に知ってもらえないか、前回の東京オリンピックが戦後復興の象徴だったように、今回は「震災復興の象徴」に出来ないだろうか。この思いは、県の行政の方々も同じだったようです。「渡部さん、ＦＧＡＰ認証を取ってみたらいかがですか、選手村の食材提供を通して世界中のアスリートの人々に福島県産椎茸を大いにアピールして下さい。」と提案を受けたのです。

私には大きな夢があります。この施設を通して、様々な「縁」「絆」が生まれました。それらを大事にして将来海外の方々にも「いわきゴールドしいたけ」を食して頂きたいという願いです。私共にとっても正にオリンピックは「世界デビューの第一歩」と思っています。

女性に向けたイベント「森林（もり）の恵みのリースづくり～針葉樹（フレッシュグリーン）と木の実を使ったリースづくりワークショップ～」を開催しました

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島県林業労働力確保支援センター

令和元年十一月二四日（日）午後一時から、郡山市にあるカフェ「もりのかぜ・らぼ」にて、女性に向けたイベント「森林（もり）の恵みのリースづくり～針葉樹と木の実を使ったリースづくりワークショップ～」を開催しました。これは、当協会が行っている森林・林業担い手対策事業の一つとして、森林や林業に興味関心のある女性に向けて森や木に関するイベント等を開催するもので、今年度は二回（十一月と三月）開催を予定しております。

今回は、福島市在住のフラワーデザイナーＭＩＫＩこと氏家幹子さんを講師に迎えて、生の針葉樹とドライ加工の木の実を使ったリースづくりワークショップを行い、参加者は定員の十六名（十お子様一名）となりました。使用した生の針葉樹は、福島市内のフラワーショップｃｏｃｏｒｏにて、飾り・道具一式は郡山市内の横浜ディスプレイミュージアムにて準備いただきました。

はじめに、講師の氏家さんから作業の流れについて説明を受け、それぞれの針葉樹を適度な長さにカットする作業からスタート。切った針葉樹は、ワイヤーを使ってバランス良く土台に巻き付けていきます。今回は、リース素材の針葉樹を四種類（ブルーアイス、クジャクヒバ、ヒムロスギ、ヒバ）、他に飾りとしてユーカリとサンキライを準備しました。

枝にハサミを入れた途端、針葉樹のフレッシュな香りが辺り一面に広がり、カフェは癒やしの空間に。香りも、葉の触り心地も色合いも針葉樹の種類により異なり、参加された方は、その違いを楽しみながら一本一本土台に巻き付け、一重二重と葉を重ねながら思い描くリースの形に近づけていきました。

土台ができたら、続いて飾り付けを行います。今回は、より短時間で簡単に作れるよう、生花にも付けることができる接着剤を使って、生のリース素材にドライの木の実を飾り付けしていきました。松ぼっくりやスターアニス、どんぐりや白く可愛いブナの花を飾り、さらにサンキライの赤い実と、雪にみたてた綿の実を飾り付けると一気に華やかになり、リースが完成しました。

もりのかぜ・らぼさんの植物に囲まれたあたたかく素敵な空間と、氏家さんの明るく飾らない人柄に助けられ、楽しく充実したイベントとなりました。女性に向けたイベントも回を重ね、参加が二回目以上という方も多くなり、イベントそのものが少しずつ定着している様子も感じることができました。

今回のワークショップは関係者の協力のもと「作る、香る、飾る」の三つの楽しさを参加者と共有することができ、今後も、それぞれの日々の暮らしの中で、森や木に関わるモノ・コトを積極的に取り入れて、楽しんでいただけることを願います。

講師の氏家さんによる説明

ワークショップの様子

ワイヤーを使って葉を土台に巻き付けます

葉を重ねながらリースを形作っていきます

完成したリース、素敵に仕上がりました！

作ったリースを手にしての集合写真

福島県森林環境税による取組 第２回 ～第１、２期における取組～

福島県農林水産部森林計画課

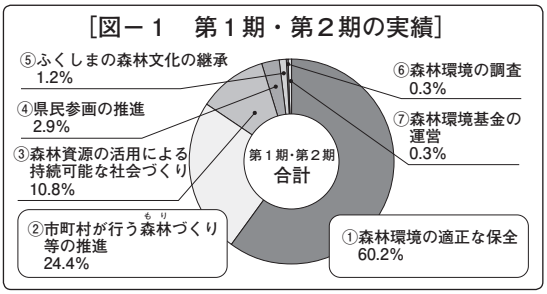
１　はじめに

福島県森林環境税は５年間を１課税期間とし、平成18年度から平成22年度までを第１期、平成23年度から平成27年度までを第２期、平成28年度から令和２年度までを第３期として「県民一人一人が参画する新たな森林（もり）づくり」に取り組んでまいりました。今回は、第１期、第２期の特徴と、代表的な取組について紹介します。

２　森林環境税による新たな取組の始まり

森林環境税を財源とした森林環境基金事業において、平成18年度からの10年間の７つの施策分野（本誌№664．12月号参照）の事業費は「森林環境の適正な保全」が60％、「市町村が行う森林（もり）づくり等の推進」が25％と大きな割合を占めていることが特徴となっており、新たな取組を推進するために導入された税制としての役割が明確に位置づけされています。

［図－１　第１期・第２期の実績］



３　森林環境の適正な保全

７つの施策分野の中で、最も大きな割合を占めるこの施策は、第１期当初、２つの事業（表－１の①、②）でスタートしました。

①は、水源地域など生活に密接な関係をもつ森林において間伐等の森林整備を実施する事業で、10年間の森林整備面積は15,911haとなり、民有林人工林の約８％に当たります。

②は、森林GISの導入により森林管理の効率化を図る事業で、インターネットによる県民への森林情報の発信を目的とし平成21年度から公開が始まった「ふくしま森まっぷ」などが含まれます。公開当初は、アクセス件数が年間約７千件でしたが、平成30年度には年間100万件を超えており、県民の皆様に親しまれる森林情報ツールになっています。

平成23年度からの第２期には、森林環境に配慮して森林の若返りを図るための少花粉スギや無花粉スギの苗木づくりなど、新たに③、④の２つの事業が追加されました。

［表－１　森林環境の適正な保全　概要］

事　業　名	実施年度	事業内容及び実績
①森林整備事業	H18～	間伐等の森林整備の実施　15,911ha
②森林環境適性管理事業	H18～	森林GIS、森林資源情報システム、ふくしま森まっぷ等の開発・運用
③森林整備地域活動支援交付金事業	H23～	森林経営計画作成支援　35,348ha
④花粉の少ない森林（もり）づくり事業	H23～	花粉症対策品種のさし付け、少花粉・無花粉スギ採穂園造成、苗木養成

４　市町村が行う森林（もり）づくり等の推進

次に大きな割合を占めるこの施策は、森林環境基金の一部を市町村に交付する森林環境交付金事業として、「⑴森林環境基本枠」と「⑵地域提案重点枠」の２つ区分により実施されています。（本誌№664．12月号参照）

⑴の森林環境基本枠は、民有林面積や義務教育課程の児童数などにより算出した交付金を活用し、表－２の①～④にある取組を実施しています。このうち、③の森林環境学習の推進は必須となっており、市町村が事業主体となった取組により、小中学生の森林を守り育てる意識の醸成に大きく貢献しています。

⑵の地域提案重点枠は、市町村が提案する県産材又は木質バイオマスの利活用等による森林環境の保全に資する事業を対象としています。さらに、これらの事業に属さない「その他」の区分において、湧き水周辺の環境整備、森林公園への炭窯設置、マツクイムシ被害木を活用したベンチの設置など、森林・林業に関するバラエティに富んだ事業が展開されています。

［表－２　森林環境交付金事業　概要］

事　業　区　分	対象分野及び実績
⑴　森林環境基本枠	①県民参画の推進実施　49市町村 ②森林の適正管理実施　25市町村 ③森林環境学習実施　延べ3,811校、実数697校（全750校の93％） ④森林整備の推進　43市町村　630ha
⑵　地域提案重点枠	①県産材の利活用推進　50市町村　339件 ②木質バイオマスの利活用推進　28市町村　71件 ③その他　９市町村　32件

５　おわりに

第１期、第２期では、県民生活に密接な関係をもつ森林における森林整備事業や、市町村の創意工夫により県民参画を促進する森林環境交付金事業を中心とした施策により、森林環境基金事業が実施されました。

次回２月号では、県民の皆様の要望に応えながら進化する森林環境税の第３期の取組の特徴と、市町村の様々な取組事例について紹介します。

福島県林業労働力確保支援センターだより

高校生の伐木等業務 特別教育を支援

森林・林業担い手育成事業で実施

学科：講義の受講風景

◎はじめに

森林・林業に意欲と技術力を有する優れた担い手の育成・確保を支援するため、令和元年十二月九日(月)から十日(火)にかけて、福島県立会津農林高等学校において同校森林環境科二年生十五名を対象に伐木等業務の特別教育を開催しました。

併せて、労働安全衛生規則等関係法令の一部改正に伴い補講が義務づけられたことから、十二日(木)昨年度特別教育を受講した三年生（二一名）を含めた三六名で補講も開催した。

◎安全衛生教育（室内）

林業・木材製造業労働災害防止協会福島県支部の講師の方々により、「チェーンソー作業の安全ナビ」のテキストを基に、室内の講義を受けました。

①伐木作業に関する知識

服装や保護具、悪天候時の作業中止の基準、近接作業の禁止、上下作業の禁止、チェーンソーの基本操作、キックバックの防止、伐倒方向の選定、避難場所の選定、伐倒の合図、伐倒の方法、待避、かかり木の処理方法、造材作業の安全な手順など

②チェーンソーに関する知識

チェーンソーの構造、取り扱い等、安全装置の機能、燃料、チェーンオイルについて、チェーンソーの点検では、毎日、毎週、毎月ごとに行う点検の項目や方法、チェーンソーの故障と整備など

③振動障害及び予防に関する知識

振動障害の原因、症状と予防対策の骨子、振動障害の予防措置、特殊健康診断の受診など

④関係法令等

労働安全衛生法、労働安全衛生法施行令、労働安全衛生規則など

◎実技

室内にてソーチェーンの目立てを行い、その後、学校の敷地を実習場所として、三班に分かれて実技を行いました。

最初に、チェーンソーのかけ方など操作の指導を受けた後、丸太切り（落とし切り・合わせ切り・突込み切りの三種類の切り方）、立木伐倒の受け口切り、追い口切りの操作を生徒全員が行いました。また、ソーチェーンの目立てや毎日点検についても行いました。

◎アンケートの結果から

下表のとおりの回答と意見感想を頂きました。

注目すべき点は、今後、森林・林業関係で仕事をしてみたいと思ったかの問いに対し「はい」と答えた生徒が八割を超えていたことでした。

実技：ソーチェーンの目立て指導状況

実技：丸太の切り落とし状況

実技：伐倒（受け口切り）指導状況

◆伐木等の業務に係る特別教育を受けてみて、特に印象に残ったものは？（複数回答可）

□支援センターの取組紹介	１名
□伐木作業に関する知識	３名
□チェーンソーに関する知識	２名
□振動障害の知識	１名
□実技：チェーンソーの操作	13名
□実技：チェーンソーの整備等	10名

◆伐木等の業務に係る特別教育を受けてみて、今後、森林・林業関係で仕事をしてみたいと思いましたか？

□はい	12名
□いいえ	２名

◆今回の伐木等の業務に係る特別教育以外に、開催して欲しい内容がありますか？（複数回答可）

□現場での作業体験	３名
□林業現場の見学	４名
□製材工場・原木市場の見学	２名
□地元の林業者の講話	４名
□有名林業地等の見学	５名

■意見・感想等

○今回のチェーンソー講習などは、なかなか受けられないので貴重な体験になりました。

○チェーンソーの正しい使い方を知ることができて良かったです。

○もう少し長く、そして詳しく知りたかった。

○実技が難しかったけど良い体験になった。

○思ったより取扱いが難しかった。

普及指導員通信

緑の文化財「三ツ森の一俵栗」保全に向けた取組について

福島県相双農林事務所富岡林業指導所
林業普及指導員　菅　野　陽　美

緑の文化財は、古くから地域に親しまれてきた銘木や鎮守の森等が指定され、身近な緑として保全・保護されてきました。当富岡林業指導所管内においては、東日本大震災及び原発事故の影響により一部の地域ではいまだに立ち入りが制限されており、緑の文化財の現況把握が困難になっている箇所があるのが現状です。

このような状況の中、平成31年４月に避難指示区域が一部解除された大熊町から、帰還困難区域にある緑の文化財現地調査を行うとの相談があり、富岡林業指導所も同行することとしました。

寒さが身にしみるものの晴天に恵まれた11月下旬、町及び町教育委員会、おおくまふるさと塾の方々とともに指導所普及指導員２名の計９名で現地調査を実施しました。

今回調査を実施した緑の文化財「三ツ森の一俵栗」は、町西部の三ツ森山自然公園内にあり、震災前は駐車場から徒歩約15分でアクセスできましたが、長期間立ち入りが制限されていたため（現在も制限されています)、倒木や雑木が繁茂していたり、今年10月に発生した台風19号の影響により林道や遊歩道が洗堀・崩落しており迂回するなど、現地に着くまで30分以上かかる大変な状況でした。

現地に到着し、緑の文化財と対面したところで、普及指導員とともに参加者が一同で、樹高や幹回りの測定を行い、樹勢は比較的良好であることを確認しました。また、枯れ枝の有無や過去に実施した保全対策の経過状況について調査したところ、枯れ枝や折損枝を発見するとともに、支柱の一部が腐食していることを確認しました。このため、空間放射線量率の動向や林道や歩道の補修・復旧等課題はあるものの、枯れ枝の除去や支柱木の再設置等保全対策を今後検討する必要性について、参加者一同共通認識を持つことができました。

避難指示区域の制限解除に伴い、立ち入りが可能となる区域が拡大してきており、それに伴い、緑の文化財の保全対策の相談が富岡林業指導所にも寄せられています。今後とも緑の文化財の所有者や町村担当者への、現地調査の実施や保全対策についての指導や情報共有を図っていきたいと思います。

「三ツ森の一俵栗」幹回り測定状況

「三ツ森の一俵栗」とともに参加者一同

森林管理署メモ

棚倉森林管理署の取組

関東森林管理局
棚倉森林管理署

棚倉森林管理署は、福島県の中通りの南部に位置し、東白川郡三町一村を包括する約二万二千ヘクタールの国有林を管理しています。

当地域は古くから林業活動が盛んで、スギ、ヒノキを主体とする人工林化の最も進んだ地域のひとつとなっています。また、このように豊かな森林資源を背景に管内には規模の大きな木材市場、製材工場、チップ工場等が立地しており、木材の安定供給基地としての役割が期待されています。

当署におきましても地域のニーズを踏まえた取組みを進めるとともに林業の成長産業化に貢献するため以下の取組みを重点的に進めていますので紹介いたします。

管内の国有林においても約七割がスギ・ヒノキを主体とした人工林で、その約九割が主・間伐の適期を迎えており、林業の低コスト化・省力化が大きな課題となっています。

このため、間伐は高効率で生産性が高く、かつ、かかり木の発生が少なく労働安全性が高い列状間伐を徹底しています（令和元年度計画三一一ヘクタール。以下括弧内の数値は令和元年度計画数値）。

また、主伐後の植栽について、従来は節の有無や年輪の混み具合を重視した建築用木材の生産を目標にした植栽本数としていましたが、強度的特性が保証された集成材等へのニーズが増加していることから二、〇〇〇本／ヘクタールを基本にしています（六五ヘクタール）。

さらに、伐採に使用した車両系林業機械を地拵え等に活用することなどにより造林事業の省力化・効率化を図る一貫作業システムを推進しています（一三二ヘクタール）。

また、従来の裸苗と比べ植栽可能期間が長く植栽が容易で作業効率がよく、また苗木生産においても草取り等の手間を省略できるなどのメリットがあるコンテナ苗を福島県農林種苗農業協同組合と連携し、本格的に導入しています（一二五千本）。

一方、間伐等の森林整備を通じて生産された木材は国産材の付加価値の向上や需要拡大等に取り組む製材工場やチップ工場と協定を締結し、国有林材を安定的に供給する「安定供給システム販売」を積極的に推進しています（四九千立方メートル）。

最後に、昨年六月の新聞記事でご承知のとおり当署管内でもついにニホンジカの生息が確認されました。まだ、生息数が少ないことから森林被害にまで至っていませんが、ニホンジカは食料条件がよいとその高い妊娠率等から生息数が急増することが知られており、生息密度の高い地域では造林地の周りに柵を設置するなど、造林経費のコストアップが林業の成長産業化の最大の課題のひとつとなっています。

このため、八溝山周辺国有林の関係署等が連携し、広域的なシカの生息状況の情報交換や対策等に資することを目的とする協議会を設立し、シカ対策に取り組むこととしています。

今後とも地域のニーズを踏まえた取組や林業の成長産業化に貢献するための取組を推進して参りますのでご支援・ご協力をお願いいたします。

列状間伐

車両系林業機械を活用した地拵え作業

棚倉署管内に設置したセンサーカメラにより撮影されたニホンジカ

公社だより

「高く売れる伐木造材現地検討会」の実施

公社ではここ数年、間伐により年間一万立方㍍前後の素材を生産しており、今後も積極的に取り組むこととしています。

素材を高く売るためには、採材、玉切り、はい積み（山土場売りの場合）等が重要となりますが、木口（切断面）の状態や採材の違いにより、販売価格に大きな差が生じます。このような状況を踏まえ、公社主催による現地検討会を伊達市の南東北木材株式会社木材市場及び公社造林地において、林業事業体職員等三二名の参加を得て令和元年十二月十一日に開催しました。

木材市場では鈴木賢二代表取締役を講師に、素材を高く売るための注意事項について説明をいただきました。また、小径木の需要は大きいが出材量が少なく三㍍材で比較的高く取引されていること、公社材はまだ若いが、年数を積めば高く取引されるようになるとの期待が持てる話がありました。

さらには、公社には大きな債務はあるが、それにより山村の経済を支えてきた役割は非常に大きいとのエールもいただきました。

午後は公社造林地に移動し、公社職員が講師となり、現在間伐を実施中の吾妻造林有限会社に伐採、玉切り等の作業協力をいただきました。

南東北木材株式会社

採材の検討の様子

参加者は五つの班に分れ、立木高や曲がりの状況を目測、その後伐採、計測、採材、材積計算、価格算出を行った後、曲がりの確認等、採材の妥当性について検討を加えました。元玉利用の有無により評価額に差がありましたが、小曲がりならチップとして活用できること、機械的に二㍍で玉切りすると評価額が四割減になる等、採材の重要性を認識し合いました。

また当事業対象外のはい積みの切断面について、樹皮や葉が切れてない、面が平滑でない等により、再度チェーンソーを当てる必要がある等、切断面の重要性を認識し合いました。

吾妻造林有限会社からは、切断面をきれいにするためにハーベスタ等の刃を定期的に研ぐこと、労働安全上作業員間のヘッドワイヤレスマイクの使用等の話がありました。

さらにはチェーンソーによる目標方向に正確に伐倒するための両サイド切り落とし、伐採木の割れを防ぐために両サイドに切れ目を入れた伐倒を実演いただきました。

幸い天候にも恵まれ充実した検討会であったと思います。職場に戻りましたら知り得たことを伝えていただき、本県の素材価格の上昇に繋げていただけることを願っています。

間伐材の有効利用展示

当公社では、十二月十七日から二六日まで福島県自治会館一階エントランスホールにおいて、スギ間伐材のツリーを展示しました。

木の文化を育む⑩

県産木材を利用した天井野縁ユニットの開発

（福島県郡山地区木材木工工業団地協同組合）

郡山女子大学 人間生活学科 建築デザインコース 准教授　阿　部　恵利子

○はじめに

福島県郡山地区木材木工工業団地協同組合では、今年度、木材製品需要拡大技術導入事業（森林環境基金事業）において、「県産木材の杉・桧を利用した天井野縁の開発」に取り組んでいます。同組合では、これまでにも「森林整備加速化・林業再生事業」において、産学官連携体制のもと、木製品を開発しており、木材製品の需要拡大と林業再生に取り組んでいます。このような取組は、県土面積の七一パーセントが森林である福島県の課題解決の一助となるとともに、地域経済においても大きなメリットにつながることが期待できるものと考えます。

○プロジェクトの概要

この開発プロジェクトは、同組合を中心に、福島県ハイテクプラザ、郡山チップ工業、ダイドーハント、オオバ工務店、郡山女子大学（人間生活学科建築デザインコース）が連携し、取り組んでいます。

住宅の天井下地は、欧州赤松が使われる割合が高く、欧州赤松は一般に釘の支持力が良いと認識されています。今回のプロジェクトは、県産木材の杉・桧を使用することを目的としており、ユニット化した野縁を現場で施工することで、県産材の使用比率を上げること、また、天井組は絶えず上を向いて施工しなければならず、高齢の職人には体力的に向かない作業であることから、プレカット化の要望も高く、開発に至っています。同組合の伊藤正道さんは、「木材の天井吊木に金物を使用し、高さの調整を容易にすることで、熟練工でなくとも天井の施工が可能となる。福島県だけでなく、全国的に大工が高齢化していること、また、実証実験の裏付けのある施工マニュアルを用意する事で、欧州赤松を使っているハウスメーカーなどに国産材利用比率の向上を呼び掛けやすくなる。」と開発への意気込みを語って下さいました。この施工が普及すれば大掛かりな設備を使用することなく、中小の木工所などでも加工が可能となり、全国的に国産材の使用比率の向上を図る事が期待できるそうです。

○木材の強度実験

県産木材を使用した場合の釘・ビスの保持力を比較検証するため、ハイテクプラザ会津にて、「杉」「桧」「赤松」をサンプルとした釘の引抜実験を実施しました。実験結果は桧が最も保持力があり、次いで赤松、杉の順に保持力が高く、欧州赤松でなくとも、釘・ビスを十分に保持できることが確認されました。次に、実際に構造部材を作成し、試作したユニット野縁を組み上げて、建材試験センター（埼玉・草加市）にて振動実験を実施しました。強度や天井野縁・石膏ボードに破損がないかを確認し、新たな課題を次回の試験に活かすべく無事に実験を終了しました。次回の振動実験はハイテクプラザ南相馬にて行う予定です。

釘・ビスの保持力を検証

○まとめ

木製品の需要拡大や森林再生に関わる課題は、次世代に森林資源を継承していくうえで不可欠である問題です。地域産業の発展のためにも、新たに得られた知見を活かし、全国へ波及するような取組が期待されます。

振動実験の様子

木材市況

九月の原木市場への入荷量は、前月比二パーセント増（前年比四パーセント減）の一九、三三二立方メートルとなっている。

販売量は、前月比三パーセント増（前年比一五パーセント減）の一九、四一二立方メートルとなっている。

十月の価格は強含みとなっている。

素材の価格〈工場着価格〉（2019年10月15日現在）

（単位：㎥当り千円）

区分		形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	中通り地方 当月	中通り地方 前月差	会津地方 当月	会津地方 前月差	浜通り地方 当月	浜通り地方 前月差	県平均 当月	県平均 前月差
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	10 (9～12)		(0～ 0)		9 (9～ 9)		10 (9～12)	1
		10~14		並	スギ	12 (12～13)		(0～ 0)		12 (11～13)		12 (11～13)	
	中	14~22	3.00	並	スギ	12 (10～15)		13 (13～13)		12 (12～13)		12 (10～15)	
				並	ヒノキ	19 (16～22)		(0～ 0)		15 (14～16)		17 (14～22)	
			6.00	並	スギ	16 (15～17)		10 (10～10)		18 (17～18)		16 (10～18)	
				並	ヒノキ	30 (25～35)		(0～ 0)		23 (20～25)		26 (20～35)	
		20~28	3.65	並	スギ	12 (11～12)	1	11 (10～12)		12 (12～13)		12 (10～13)	1
			4.00	並	スギ	12 (11～12)	1	11 (11～11)		12 (12～13)		12 (11～13)	1
				並	アカマツ	9 (7～12)		(0～ 0)		10 (9～10)		9 (7～12)	
			1.80	並	アカマツ	8 (5～11)		(0～ 0)		8 (8～ 9)		8 (5～11)	
外材	米材(定尺)	30以上	10.00	並	米ツガ	(0～ 0)		(0～ 0)		30 (30～30)		30 (30～30)	
				並	米マツ	(0～ 0)		30 (30～30)		28 (28～28)		29 (28～30)	
	北洋材(定尺)	28以下	3.80	並	エゾマツ	(0～ 0)		(0～ 0)		25 (25～25)		25 (25～25)	
			4.00	並	アカマツ	(0～ 0)		(0～ 0)		25 (25～25)		25 (25～25)	
				並	カラマツ	(0～ 0)		(0～ 0)		25 (25～25)		25 (25～25)	
パルプ用材				並	マツ	7 (7～ 7)		(0～ 0)		7 (7～ 7)		7 (7～ 7)	
				並	広葉樹	10 (10～10)		(0～ 0)		(0～ 0)		10 (10～10)	

区分	形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	会津共販 当月	会津共販 前月差	いわき 当月	いわき 前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(0～ 0)		7 (6～ 9)	
	13～14		並	カラマツ	12 (11～12)		8 (7～ 9)	
	16以上		並	カラマツ	14 (13～14)		10 (9～10)	

注）1．前月差の△印は値下りを示す。
2．（ ）内は各地域の価格幅、（ ）外は各地域の平均的価格を示す。
3．一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
4．各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

ふくしま東西南北

福島県オリジナル品種ほんしめじ「ふくふくしめじ」

福島県県北農林事務所　二瓶郁子

みなさん、「ふくふくしめじ」、ご存じですか？

これは、福島県が日本で初めて自然栽培に成功した、ほんしめじのオリジナル品種の愛称です。野生のほんしめじと比較しても遜色のない美味しさで、うま味成分であるグルタミン酸とアスパラギン酸が多く含まれています。

県内数か所のモデル地区で平成二九年度から栽培されており、県北農林事務所管内では、平成三〇年度は伊達市、令和元年度は伊達市と二本松市の生産者が栽培に取り組みました（令和元年度の取組は県北農林事務所森林林業部のＨＰをご覧ください。）。

今年度は、伊達市や二本松市にある農産物直売所や道の駅等で販売されたので、十月末くらいに、ちょっと高価なほんしめじを目にした方がいらっしゃるかもしれません。菌床製造にコストがかかる関係で、他のきのこと比べると、どうしても高値になってしまうふくふくしめじ。今シーズンの生産は終わってしまいましたが、来シーズンも生産・販売される予定ですので、来秋どこかで見かけたら、是非ご賞味ください!!

なお、生のきのこのシーズンは終わりましたが、伊達市月舘町にある「つきだて花工房」内のレストランでは、年明けくらいに、ふくふくしめじを使った釜飯が期間限定でお目見え予定、との情報があります。「つきだて花工房」は宿泊・日帰り入浴もできる施設ですし、ちょっと足をのばすと「道の駅　伊達の郷　りょうぜん」もあります。まずはこの冬、伊達市観光をしながら、可能であれば、ふくふくしめじを味わってみませんか？

ふくふくしめじの販売状況

はなしのひろば

新しい年

冬枯れ色の庭に咲いている寒椿と南天の赤が、元日の朝には、格別なお祝いの色にみえてくる。赤に添った葉の緑にも新しい息吹を感じる。年が新しくなると、いつもの見慣れた風景がこんな風に観えてくる。身の回りのことや習い事に「初」や「新」がつく年の始め。庭に出て、目を閉じ新しい空気を吸い込むと、冷気を含んで澄んだ気が体の真ん中を通っていく。リセットされた気分というよりは、昨年の自分にひとつ年を重ねなくては…という気分になる。

年が明けると二日～三日は箱根駅伝だ。箱根駅伝は、日本人五輪選手第一号の金栗四三氏の「五輪で日本を強くするには、長距離、マラソン選手の育成をすること」に由来するらしい。

そして、お正月気分が抜ける頃には、恒例の「歌会始め」となる。今年のテーマは「望」。「披講諸役（ひこうしょやく）」の独特の旋律によって、三一文字に込められた風景や情感が歌いあげられ、ゆったりとした時が流れていく。また、十七日は、阪神淡路大震災発生から二五年目となる。これが機に、今や災害ボランティアは特別なことではなくなったが、改めて被災者の数だけ復興の形があることを思い知らされる。

ここに令和二年の一年が始まった。新しいカレンダーを眺めながら、今年一年、日常の生活を丁寧に健やかに過ごすこと、その毎日のひとつずつの点が、年の暮れには平凡でも一本の線になっていればいい。幸は多い方がいいが多くは望まない、などと思ってみる。

あなたは、どんな時に新しい年を実感するのだろう。

（都）

表紙の写真

「男の仕事」

第16回ふくしま森林・林業写真コンクール
優秀賞（県森林・林業・緑化協会長賞）
受賞者　涌井礼子さん（福島市）
撮影場所：福島市水林自然林
コメント：とても力強さを感じました。

編集　福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究・整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
発行　（福島市中町五番一八号県林業会館内）
発行人　水戸　典明
陽光社印刷株式会社
（定価　一一〇円）

お知らせコーナー

第52回花いっぱいコンクール　受賞者決定

花を愛する心と豊かな情操をはぐくみ“郷土を花と緑で飾ろう”の趣旨のもと、健康で明るい「福島県花いっぱい県民運動」の一環として実施された「第52回花いっぱいコンクール」の受賞者が決定され、令和元年12月２日(月)に表彰式が行われました。

なお、福島県知事賞、福島県教育委員会教育長賞及び特別賞を受賞された団体は、次のとおりです。

福島県知事賞	喜多方市立第一小学校
福島県教育委員会教育長賞	たんぽぽ会（郡山市）
特別賞	双葉町つくば自治会

表彰式（喜多方市立第一小学校）

統計調査にご協力ください（2020年農林業センサス）

■福島県統計課■

農林水産省は、令和２年２月１日現在で「2020年農林業センサス」を実施します。

農林業センサスは、農林業の実態を明らかにし、国や都道府県、市区町村はもちろん各方面にわたり、広く利用できる総合的な統計資料を得るため、５年ごとに行われている調査です。

全国の農家や林家をはじめ、すべての農林業関係者を対象に行われる『農林業の国勢調査』ともいうべきものです。

１月中旬から農林業を営んでいる皆様のお宅や会社等に調査員が伺いますので、ご協力をお願いします。

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。

1 火災
山火事で受けた損害

2 風害
暴風による根返り、幹折れなどの損害

3 水害
豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害

4 雪害
大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害

5 干害
乾燥による枯死などの損害

6 凍害
凍結、寒風などによる枯死などの損害

7 潮害
潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害

8 噴火災
火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》
竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255㈹

または最寄りの森林組合

イワフジの GP シリーズ

GP-35B グラップルプロセッサ

IWAFUJI INDUSTRIAL CO.,LTD.

傾斜地に対応した全旋回チルトプロセッサ
・最大 38 度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
・全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
・サイドカッター解除機能により曲がり材に対応
・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材

最新の GP-8 コントローラを搭載
・5.7 インチカラー液晶ディスプレイによる多彩な情報表示
・感圧式タッチパネル採用により操作性が向上
・A,B,C,D の 4 コード毎に 4 種類、合計 16 種類の測長設定値
・樹種を 4 種類登録でき、個別に測長調整値の設定が可能
・材積集計機能を標準で搭載

新開発のスタッドローラ（オプション）
・鉄輪の全周に装着された無数のスタッド（鋲）が材を強力に捉え、送りモータのトルクを伝えます。
・特殊形状のスタッドを一体化したシンプルな構造で、メンテナンスが容易

For the future with forest

イワフジ工業株式会社
http://www.iwafuji.co.jp/

（北関東支店） 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168
（本社・工場） 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西 5-1
（支　　店） 札幌・東北・北関東・関東・中部・関西・九州

林業福島　一月号　通巻第六六五号
令和二年一月一日発行
（毎月一回一日発行）
監修　福島県農林水産部
編集発行人　水戸　典明
発行所　公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島市中町五番十八号　県林業会館内
定価一一〇円
年間購読料一、九八〇円（税・送料込）

レインボー薬品の薬剤と資材

緑地管理の未来をひらく

わたしたちは、人と自然の調和を考えながら、より良い緑の環境づくりを目指しています

松くい虫予防薬剤

ヤシマスミパイン乳剤
スミパインMC
マツグリーン液剤2
グリンガード・NEO

くん蒸剤

ヤシマNCS

くん蒸用生分解性シート

くん蒸与作シート

ハチ退治

ハチノックL（巣処理用スプレー）
ハチノックS（携帯用スプレー）

レインボー薬品株式会社
東京都台東区上野1-19-10
お問い合わせ　TEL. 03(6740)7777
平日 9:00～17:00（土・日・祝日は休み）

ZENOAH®

人と共に　緑と共に

For Professional

BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

For Professional

GZ3950EZ
排気量 39.1cc
／
GZ4350EZ
排気量 43.1cc

ZHM1550RR

刈幅：1500mm　出力：27.5kW

SR3100

破砕径：200mm　出力：18.4kW

ハスクバーナ・ゼノア㈱ 福島県代理店

(有) うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1